

人生に、
無駄なことなんて
何ひとつない

最近ではメールでの投稿も増えてきましたが、盛岡市の大和田ツヤさん(八二歳)から原稿用紙に一字一字ていねいに書かれたお手紙が、毎月のように編集室にとどきはじめて、三十年になります。

—— 買い物帰り、空き地に小さな青い花を見つけた。ひとやすみしよう。傍の石に腰をおろして、ひととき花とおしゃべり。一輪の花も懸命に生きている。花咲くにも時があり、種をつけるにも時がある。私もひと足ひと足、自分で歩む。人生どんな事でも、無駄なことなんて何ひとつないと思う。こんなにきれいな空の下、きょうも一日、本当に幸せです——。

隣家に住む次男に「小学生の作文」とひやかされながら、その息子さんはまだ少年だった頃のことよく書かれていました。たまにしか紙面でご紹介できないのですが、「書くことは、自分へのはげましですから」。暮らしのなかで心に残ったことを、少しずつ書きためていくと、人生が深くなるようですね。

株式会社ダスキン社長

伊東英幸

写真・市谷健 「なんか笑えてきちゃうの」

no.454

喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る



葉っぱのアトリエから (2)

絵と文・葉っぱの画家
群馬直美

一枚一枚葉っぱの「肖像画」を描くうちに、草木の名前や生い立ちに詳しくなったという群馬さん。旅先では、葉っぱの絵をぎっかけに、その土地の人たちとのあたたかい触れあいが始まります。この季節は海辺でのエピソードから――。

夏の季節に寄せて



1997年6月7日 マテバシイ 板にテンペラ

貝殻とマテバシイ

あるイベントで南房総に行ったとき、「海辺の鑑定団」の人たちとお会いしました。海辺の自然環境や生態系を守るために活動中の彼らが貝殻ワークショップを開いている横で、私は自分の本を並べて売っていました。

「この貝の名前は何かな?」

暇だったので、手伝っていた小学校3年生くらいの男の子に話しかけてみました。男の子はスラスラと答えます。

「キンチャクガイだよ」

「じゃ、これは?」「ハツユキダカラガイ」「じゃあ、これは?」

次々と質問すると、側にいた女の子や大人たちまでが声をそろえて名前を言い、おまけに豆知識まで教えてくれるではありませんか。

ちょっと悔しくなった私は、「お姉さんは貝殻の名前は知らないけど、葉っぱや木の実は詳しいよ」。本をひらひらさせて、えぼつてみました。

「うわア、すごい! これ、全部描いたの?」
みんな目を丸くして本に見入っています。そのと

き、一番盛り上がったのが、本にも大きな葉っぱの絵がある「マテバシイ」の話でした。

南房総ではその昔、海中で海苔をからませて育てる「海苔ヒビ」という柵に、マテバシイの木の枝を使っていたそうです。人々は生長の速いこの木をこぞつて植えました。海苔ヒビの柵はそのうち竹に変わりましたが、今でも全山、輝くように美しいマテバシイの山が、南房総を彩っているのです。

待てば椎になれる?!

夏の間、マテバシイは都会の駅前広場でも涼しそうな木陰を作っています。秋になると2年ごとにどんぐり(椎の実)が落ちて、新しい命につながります。

実から大木へと生長し、「待てば椎になれる」というのがその名の由来かと思っていたら、違いました。漢字で書くと、「真手葉椎」。『花歳時記大百科』によれば、真手とは「左右そろった」とか「両手」「本当の」という意味だそう。たしかに葉っぱの形は、掌を少し膨らませて、両手を合わせたような形にそっくりです。一年中、お祈りを捧げてくれているのでしょうか。

よっ、いなせだね!
福岡市 中村 澄子(博多山笠で)



GOROthine
FASHION
BRAND PRIX

写真を送ってくださ
い感じのあなた、

マイファッション募集。



うれし、はずかし、初めて自分で着たの。
高崎市 長瀬 陽子(おのちも着たいわー)

それぞれ、それぞれ、お祭りだ!
熊本県本渡市 長川 令子



「出してみたら?」と友人や家族に勧められた我ながらうれしい写真、どこかに眠っていませんか? 本紙に発表して、600万人の読者にお披露目してください。ステキなわたしやかわいいペットが撮れたら送ってね。故郷のおばあちゃんも喜んでくれるかも。お待ちしてま〜す!
(詳細は7ページ)

おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ



お料理研究家 こいけりえ



長い長い子供の夏休み。おやつと言えば、カキ氷かアイスクリーム!? ちよつと待って! たまには目先の変ったオシャレなデザートで、お母さんの株を上げてみては。濃厚なマンゴソースとココナツミルクの冷たい寒天を合わせただけで、見た目も味もレストラン並みの豪華さです。ハワイに行かなくても、一口食べれば「ああ気分は南国!」

さわやかトロピカル風夏のデザート 「フレッシュマンゴーとココナツ寒天」

◎ココナツ寒天を作る
鍋に水、牛乳各カップ1、砂糖大きじ5、粉寒天6gを入れて火にかけて、混ぜながら煮る。熱くなつて溶けてきたらそのまま1〜2分間煮る。(注・沸騰させないこと)ボールにココナツミルクカップ2を入れてよく混ぜておく。混ぜ終わったら、温めた寒天を素早く加えてさらに混ぜる。中をぬらしておいたパットに流し入れ、粗熱が取れたら冷蔵庫に入れ30〜40分冷やし固める。

◎マンゴソースを作る
フレッシュマンゴー1個(なければ冷凍のカットフルーツでもよい)マンゴーは皮を剥いて大き目のスプーンを使い、タネから果肉を削り取るようにすると、きれいに無駄なく果肉が取れます。(完熟に近いマンゴーの方が作りやすい)ジッパー付きのポリ袋にマンゴーを入れて、口をしめ手で潰すようにする。マンゴーが潰れたら、レモン汁小さじ1、ガムシロップ(アイスコヒーなど)に入れるカップに入ったもの1個を加え袋の中で混ぜ合わせ、ソースの出来上がり。

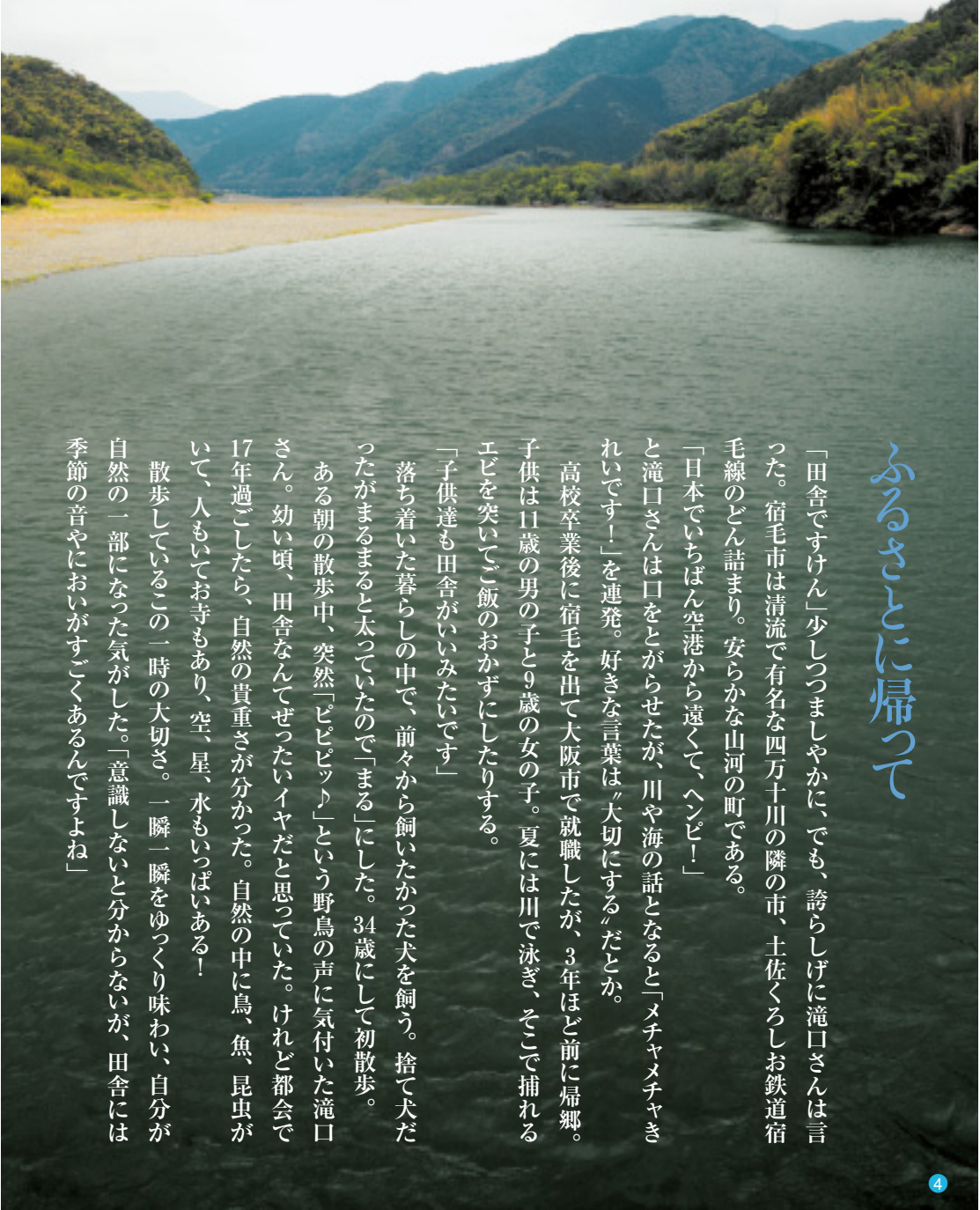
◎盛り付け
固まったココナツ寒天をハットの中でサイコロ状にカットし、涼しげなガラスの器に盛り付ける。マンゴソースをタップリとかけ、色取りにミントの葉をのせる。黄色、白、グリーンの色鮮やかなデザート完成。甘いココナツ寒天とほどよい酸っぱさのマンゴソースがからんで、とろけるような味わいです。



「木の葉の美術館」アート&エッセイ170点の葉っぱの画集。2冊目は「木の葉の宝石箱」ともに世界文化社/2100円(税込み)

群馬直美/群馬県高崎市生まれ。東京都立川市在住の画家。作品はインターネットでもご覧になれます。
<http://www.wood.jp/konoha/>

後日、海辺の鑑定団からごっそり送られてきた貝殻を描きたいと思いつつ、もう何年も経ってしまいました。アトリエでマテバシイの葉っぱ型に両手を合わせて耳に押し当てると、海の音がして和やかな気持ちになります。



ふるさとに帰って

「田舎ですけん」少しつましやかに、でも、誇らしげに滝口さんは言った。宿毛市は清流で有名な四万十川の隣の市、土佐くろしお鉄道宿毛線のどん詰まり。安らかな山河の町である。

「日本でいちばん空港から遠くて、ヘンピ！」
と滝口さんは口をとがらせたが、川や海の話となると「メチャメチャきれいです！」を連発。好きな言葉は「大切にする」だとか。

高校卒業後に宿毛を出て大阪市で就職したが、3年ほど前に帰郷。子供は11歳の男の子と9歳の女の子。夏には川で泳ぎ、そこで捕れるエビを突いて「飯のおかずにしたります」。

「子供達も田舎がいいみたいです」
落ち着いた暮らしの中で、前々から飼いたかった犬を飼う。捨て犬だったがるまると太ついたので「まる」にした。34歳にして初散歩。

ある朝の散歩中、突然「ピピピット」という野鳥の声に気付いた滝口さん。幼い頃、田舎なんてぜったいイヤだと思っていた。けれど都会で17年過ごしたら、自然の貴重さが分かった。自然の中に鳥、魚、昆虫がいて、人もいてお寺もあり、空、星、水もいっぱいある！

散歩しているこの一時の大切さ。一瞬一瞬をゆつくり味わい、自分が自然の一部になった気がした。「意識しないと分からないが、田舎には季節の音やにおいがすごくあるんですよ」

高知の山河で録音100時間 うつくしい自然の音をCD「四国の音」に

大阪や高知市の街で働き、ふるさとにUターン。ある日、豊かな自然の音に気が付き、この感動をみんなにも！と、せせらぎや鳥の声を収録したCDを作ったユニークな人がいる。滝口みつおさん(37歳)を高知県宿毛市にお訪ねした。



「四国の音」春夏秋冬の自然音10編。

川宇宙／遠くから低音で響く流れと、水のしたたる高音が融合。背後で鳥も囀く。コオロギ・オドロキ／コオロギ、カエル、フクロウによる三重奏。セミ遊び／ツクツクボウンの合唱と風鈴の音色が田舎の夏を感じさせる。(840円 TUTAYA四万十店、道の駅、インターネットで)

www.shikokunooto.com

ふるさとに住むしあわせ

野鳥の声に気付いてからは、時間を見つけて自然界の音色を探した。

約8カ月、ほぼ毎日、集音マイクを手に「ここぞ」と思う所を歩き回った。



まる。雑種2歳半。元気いっぱいよく吠える。「らんぼーな犬なんですワ」

奥さんの美月さんと。恋女房なんでしょ？

「わははは(あとで市営船着場の人達に冷やかされちゃうんですけど)」



寒さに震え、風に吹かれ、蚊に刺され、車の音に悩みながら、鳥やヒグラシが鳴くのを辛抱強く待った。「川辺では風が吹くとその音を拾ってしまい、せせらぎの音がぼーっという音に。車を避けて夜中に行ったりね。集音していると何も考えなくなる。自分が無になるといふか」収録時間は延べ100時間以上。その中から気に入った音を選んで、高知市の専門家に編集を依頼、1編3〜4分ずつ10編を取めたCDを1千枚制作した。

滝口さんは「気ぜわしい日々だからこそ、自然の音を聞いてリラックスしてほしい。四国の豊かさを、田舎の田舎、宿毛から発信していきたい」と熱く語っていた。

CD制作の前、30歳位から思い始めたのが「時間よ、止まれ」。止めてみたいですね。多分、田舎の時間は遅く流れるやろな。そう思いましたが、そんなことはなくてやっぱり速い。1〜2年すぐたちます——そう話しながら笑った滝口さんのお仕事は、沖の島へ渡る市営定期便の切符販売。

なんだあ、海の男でもあったのか。

「透明度の高い海、メチャメチャきれいです」

奥さんの美月さんと夫婦で船の切符売り場にいる。宿毛へいらっしやったら、きつと会えるに違いない。





ナスビの辛子漬

山口県平生町 近藤トモ子

毎年、ナスビが出回る時期には、必ず辛子漬を作ることに決めている。レシビは、今は亡きクラスメートから教わった。ガンで入院中の彼女を見舞った親友が、土産にもらった手作りの辛子漬がとても美味しかったから、いまのうちに教わっておきなさいよと電話をしてきた。春はまだ浅い頃だった。

卒業以来、一度も会えなかった彼女に思い切ってお見舞いの手紙を書き、作り方をお願いしたところ、数日後レシビと共に手紙が届いた。末尾に「今夏は私には作れそうもありません」とあった。それから間もなく彼女の訃報を伝え聞いた。早いもので、あれから7年たつ。

昨夏は6キロものナスビで辛子漬を作った。作る度に、オカッパの少女だった彼女を思い出す。今では私流に一手間加えて、味も少し違うけれど、彼女のレシビは私の知人友人へと伝わっている。辛子漬は彼女への供養。だから今年も作ります。

——辛子漬は人生の味……



ドカベン

愛知県豊川市 山口洋子

昔、主人のあだ名は「ドカベン」で、外見もその通り。ですからお見合い写真を見たときは、お断りさせていただきました。

3年後、まだ結婚の決まっていない私は、両親のたつての薦めで主人とお見合いをすることに。そのお見合いの席で話を始めた直後、主人の穏やかな大海原のような心を感じ、私は「この人と結ばれるわ!」と直感したのです。結婚後、同僚の奥様から「あなたのご主人の後に赴任すると、皆さんが『山口さんは良かった』とほめるんですって」と聞かされ、主人を誇らしく思いました。

20年経った今「ドカベン」のあだ名は消え、風格すら感じさせるようになった主人。結婚っていいものです。年々、幸せが積み重なって行くようで……

——「ドカベン」は人生の味……

いのち、キラキラ、子どもたち



広島県福山市 豆田麻紀子

保育園に通う3歳の娘はいろんな歌を覚えて帰ってきては私の前で歌ってくれます。最近はおかあさん、なぐに、おかあさんていいにおい? 洗濯していたにおいでしょ? 玉子焼きのにおいでしょ?」とよく歌います。この歌が大好きで歌う姿も可愛く、お母さんになって良かったなあ、ってしみじみと幸せを感じます。あまりに私が喜ぶので「じゃあ、毎日お布団の中で歌ってあげるね!」と立場が逆転。子守り歌を娘に歌ってもらおう今日この頃です。



埼玉県人間市 山本百合子

主人と13歳の息子は生活時間が合わないで、すれ違いの日々です。雨でサッカーの練習がなかった休日、息子は寝ている主人の布団に潜り込み、ずっと顔を見ていたようです。

「笑ってるよ。寝てるのに!」と報告に来たかと思ったら、二人仲良くグッスリ(笑)息子はパパの寝顔を見つめて何を思ったのか? 微笑ましい二人の寝顔です。ん! パパ苦労してる? 老けたわね(笑)



北海道伊達市 土屋みゆき

22歳の娘が、今月17日に無事出産しました! 私達夫婦は、43と42歳で祖父母になったんです。

孫を見ていると、フツと娘の産まれた頃を思い出します。耳が聞こえない私と片足義足の夫。二人三脚の子育てを……

今、その娘がお母さんになり、これから孫を育てていく。しっかりと頑張ってほしいと思います。

泣きに行く所を
人生には運、不運があり、
不運だといってなげいている人は、
不運であると悲観的に考えすぎて
ますます自分をみじめにしているのです。
幸運なチャンスも不運なことも、
だれにも公平にやってくる。
賢明になれない、
強くもなれないなら、
弱くも悲しいままで
泣きに行く所をもつべきです。

鈴木清一



エコらいび 4

降るとジメジメ、晴れると蒸し暑い。もうエアコンのスイッチオン!と思う前に、やることあったでしょ、フィルターのお掃除。エコ話をすると2週間に1度のフィルター掃除で節電5%、設定温度を1度低くすれば節電10%。使い始めは必ず送風し、少しでもカビ臭を感じたら、エアコンもまるごとクリーニングして省エネ効果バツグンの快適な夏を!

お電話(無料)にて、おそうじに関するご相談に専門知識を持ったスタッフが答えいたします。「どんな洗剤を使ったらいいの?」「お掃除方法は?」など、日頃聞けないちょっとした疑問でもお気軽にお電話下さい。

0120-701-760

フリーダイヤル

「夏のおそうじ相談室」(無料)
8月8日(水)~8月10日(金)の3日間
受付時間は10:00~17:00です



「夏のおそうじ相談室」
開催のお知らせ

わたし2歳だけど、盛岡のスーちゃんと似てるかしら?



盛岡市 佐藤澄子(祖母で〜す)

あなたのお便りや
写真をお寄せください

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。

どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先

〒163-0232 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル内郵便局 私書箱 第47号

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室

電話 03(5909)6703

e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

●2ページの群馬直美さんの連絡先は

〒190-0013東京都立川市富士見町2-32-27 石田倉庫No.3 2F

●4-5ページの滝口みつおさんの連絡先は

四国田舎企業 〒788-0053 高知県宿毛市坂ノ下18-7

e-mail:gurume@lemon.plala.or.jp



停電パニック

岩手県花巻市 熊谷昌子

念願のマイホームが出来て3年目のある朝、Hクッキングヒーター、オール電化の我が家が停電パニック。「トーサン大変!なんじよするう〜」夫婦二人だけならなんとかなるが、オババはご飯でなければダメな人。オババに言えば、「軒先で薪で炊けば〜」と言うに決まってる。「コンビニでおにぎりでも買ってこえいい」とオットー(夫)。

買いに行つて帰宅すると停電は解除されており、あく、くたびれもうけ! その傍らでオットーが、「やっぱりオッカーの味噌汁がええ」と一言。もうすぐリウマチ検査のために名古屋へ里帰りする私の代わりに、極楽トンボの息子と共に「ごはん作り」をするがいい。その時こそオッカーのあらがたみも分かるであろう。

——そうだ、そうだ共感の嵐



成績発表

広島県福山市 増原恵子

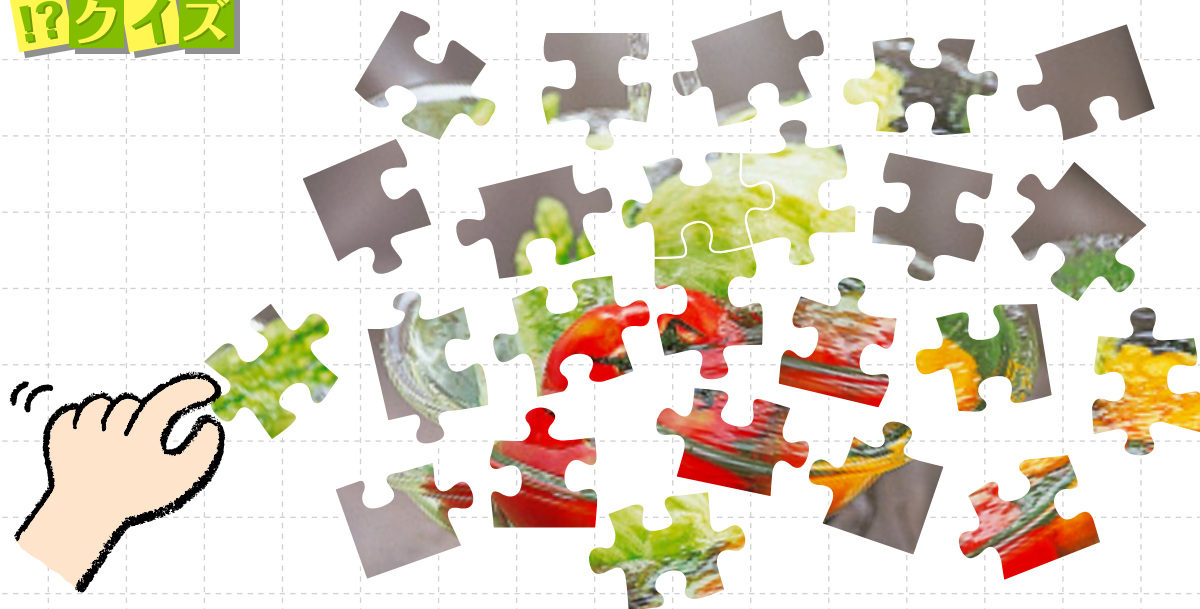
今、孫は2歳。先日スーパのカートの上に孫を乗せていたら、壁にコツン。孫の体が少し揺れたので慌てて抱くと、今度は私の眼鏡でおでこをコツン。「ごめんね、ごめんね、痛かった?眼鏡が当たつてごめんね」とおでこを擦ってやると、孫は私の顔に頬を寄せ、母親が子供をなだめるように背中をとんとんとん。やさしい手だねえ…。そんなやさしい孫に育てた「娘、えらいぞ!」「娘の夫もえらいぞ!」と心の中でつぶやいた。

このまま心の優しい子に成長してほしい。そのために私は娘の理解者として、人生の良き相談相手になりたい。私が育てた娘。その娘が育てる孫。孫を見れば私の過去の子育ての点数が一目瞭然。長い長い成績発表に気が引き締まった。

——がんばれ、おばあちゃん!(孫)



問. ダスキンの浄水器「おいしい水プラス」の、
使用中の様子をパズルにしました。
さて、何をしているところでしょうか。



「おいしい野菜を洗っているシーン」

水だって食材のひとつだと思おう。
だから、こだわりたい。

- 取付部分と切替レバーが360度回転。水仕事をジャマしません。
- 4週間に1度、カートリッジ交換にお伺いし、浄水性能をキープ。
- 本体も1年ごとに交換。浄水器自体も、つねに清潔。
- お料理や飲用にたっぷり使うなら、浄水器を。



ダスキンの浄水器 **おいしい水プラス**

ハイパワーカートリッジ
4週間標準レンタル料金 **2,625円(税込)** [1-3538]

中空糸膜カートリッジ
4週間標準レンタル料金 **2,415円(税込)** [1-3537]

レギュラーカートリッジ
4週間標準レンタル料金 **1,942円(税込)** [1-3536]

● おいしい水プラス⁺クリアカートリッジもあります。(4週間標準レンタル料金1,942円(税込) [1-3539]) ● カートリッジの種類を問わず、初回に部材・取付費1,050円(税込)を別途いただけます。※ 部材・取付費のなかには、水栓への取付部材のアタッチメントの使用料と取付費、及び1年ごとの本体交換費用が含まれます。
※ 詳しくはお客様係までお問い合わせください。

※この用紙は再生紙を使用しています。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキ**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室
〒163-0232

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル32階(私書箱47号)
TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキコールセンター

0120-100100 www.duskin.jp